

光星 日本一へ気合

初戦を控え、打撃練習に励む八学光星主将の武岡龍世(6日、八戸学院大室内練習場)



明治神宮野球大会 あす初戦

第49回明治神宮野球大会は9日、東京都の明治神宮野球場で開幕する。高校、大学の部に分かれて行われ、高校の部には秋季地区大会を勝ち抜いた10校が出場。秋の日本一を目指して激突する。東北地区からは八学光星が5年ぶりに出場し、開幕戦で東海地区代表の東邦(愛知)とぶつか

る。光星は10月の東北大会の2回戦で、専大北上(岩手)をコールドで下すと、準決勝は羽黒(山形)、準決勝は、花巻東(岩手)に競り勝った。決勝戦では、盛岡大付(同)を5-3で下し、東北王者に輝いた。3番武岡龍世、4番近藤遼一ら中軸の打撃が好調。

一方、準決勝、決勝と守備のミスがあったことから、東北大会以降は試合を想定した練習を重ね、守備陣の連携を強化してきた。初戦で対戦する東邦について、仲井基監督は「打線が活発なチーム。投手陣が食らい付けるかどうか」とポイントを挙げる。エースの後藤文海は「相

手は体が大きく、スイングも速いが、ひるむ気持ちはない。得意の制球力で抑えたい」と気合十分。主将の武岡も「目標はもちろん日本一。目の前の一戦に全力で臨みたい」と力を込めた。高校の部では、今大会の優勝校が所属する地区に来春のセンバツでの「神宮大会杯」が与えられる。8日には明治神宮会館で開会式が行われる。

(里村静)